

コロナ予防への意識を高めるための図画工作科を中心としたカリキュラム・デザインに関する一考察

八嶋 孝幸

A study of the curriculum design led by the arts and crafts to raise awareness to corona prevention

Takayuki YASHIMA

本研究の目的は、図画工作科の指導を中心としたコロナ予防対策のためのカリキュラム・デザインを通して、コロナ予防に対する意識を深め、行動変容につなげることができるかについて検証することである。

児童が自らコロナ予防対策をできる意識を深め、行動変容につなげるために、次の二つを目的とした。

- ・コロナを正しく恐れ、困難に負けない意識をもてるようにすること。
 - ・感染症を拡大させないために、日常的に行動に気を付けることが大切だと気づき、行動変容につなげる
- こと。

上記の目的の実現につなげる行動変容を促すためのモデルとして、「トランスセオレティカル・モデル (Trans-theoretical Model, 以降 TTM と略す) : 行動変容段階モデル」を応用してカリキュラム・デザインを行った。

図画工作科の実践を通してコロナ予防に対する意識が深まったかを検証する方法として、授業プロセスの記録を基にした分析とポートフォリオの記述を基にした分析をし、教科の学びにコロナ予防についての学習が生かされていたか、コロナ予防に対する意識が深まったかについて検証した。

本研究における授業実践は、

「コロナに負けないヒーローショー」(工作に表す)

「コボリン星のネバーエンディングストーリー」(工作に表す)

計2題材を実施した。

実践の結果、コロナ予防対策をテーマに設定し、他の教科等と関連させながら、課題解決に取り組むことを通して、コロナ予防への意識が高まる様子や行動が変容する様子が見られた。

また、コロナ予防対策に関する教科等横断的な指導を行ったことで、図画工作において表現する際にも他教科等で学習したことを発想の基とし、イメージを広げながら形や色を工夫する様子が見られた。普段、発想や構想につまずきのある児童においても他教科でコロナ予防対策というテーマで学習したことを生かしながら、形や色を工夫して表現する様子が見られた。

結果として、教科で身に付ける資質・能力と予防対策意識の深まりにおいて両面でよい成果が得られたと考えるが、何故そのような結果が得られたかについては、学習プロセスのより丁寧な分析や考察が必要である。また、行動変容を継続している状態にするためには、TTMの段階をさらに進める必要があると考える。そのためのカリキュラム・デザインを工夫していくことが今後の課題である。